

温故知新

「持続可能な学校づくり」

「『温故知新』で糀谷小ウェルビーイングの実現」

☆叡 智 Wisdom
☆熟 慮 Deliberate
☆進 取 Enterprising

好奇心を失わず
あせらず
あきらめず
あわてず
心ある人を捜しつつ
「生き抜く力」と「息抜く力」のバランスを取り
理想は高く、着実に一歩ずつ

校長 水浦 茂樹

○はじめに

現在の子どもたちが成人する頃には、我が国は厳しい時代を迎えていると予想され、その厳しい時代の中では、自己を失わず、周りと協力し、乗り越えていく力が必要となる。困難な問題が起きたとしても、決して逃げ出さず、解決に向けて最後までやり抜く能力が求められる。私はそれを「生きる（抜く）力」そのものであると捉える。

小学校教育としては崇高すぎる、実体離れ、現実離れと批判を受けるかもしれない。しかし、人育ては、子どもたちに期待をし、必ず育てたいという夢をもってこそ、成り立つのではないかと思う。人のせいにならない、自分を大切にするとともに、他者の立場に立って物事を考えることができる人を育てたい。

【自律】知らないこと知ろうとする、自分の与えられた課題に一生懸命取り組み、成し遂げようとする。誠実に、うそをつかず、人をだまさず、自己中心的でない、不平を言わない。

【共生】親切で、友好的で、相手の立場に立って考えることができ、優しく、思いやりがある。人のために尽くす心がある。

【創造】価値あるものを創り出す、振り返り、新たな考えを出す、創意工夫する、美しいものを美しいと思う、感動する心をもっている。

私のささやかな夢。子どもたちの未来には、多くの夢や可能性が広がっている。子どもたちの幸せな人生を送るための選択の幅を広げてあげたい。

また、学校の正義は何かと問われたならば、もちろん人格の完成を踏まえた上で、確実な子どもの学力保障と社会性の涵養と答えたい。

そのための学校は、子どもにとっては、行きたくなる学校であり、保護者にとっては、行かせたくなる学校であり、教職員にとっては、勤務したくなる学校である。このような学校を信頼される学校と言う。その中でも第一義的に考えなくてはならないのが

・子どもにとっては、行きたくなる学校

である。

では、子どもにとって行きたくなる学校の具体とは何だろうか。

気の合う友達の存在だろうか。休み時間や給食の時間だろうか。あるいは運動会、文化祭だろうか。

私は、やはり授業の充実を挙げたい。

分からない授業を受けることくらいらく、退屈なことはない。分かる授業は、生活指導そのものであり、進路指導そのものである。それはまた、子ども一人一人の出番を保証することで成立するので、個に応じた教育の展開につながっていく。

「子どもは育てたように育つ」と言われる。このため、人を育てる教師の使命は重要となる。「教師が育つ ⇒ 子どもが育つ ⇒ 学校が育つ」である。70周年記念行事を成功させるべく、充実した教育活動を展開いたしたい。そして、初代校長 宮田 高男先生が大事にした言葉『温故知新』で糶谷小ウェルビーイングの実現を目指す。これが、持続可能な学校創りの初めの一步となる。

I 学校経営の基本方針等

本校は、大田区立学校であり、設置者は大田区である。また、本校は、本年度は創立70周年（開校146年）記念行事を開催する。

このため、例年に増し、「大田区教育委員会の教育目標」及び「おおた教育ビジョン」を踏まえ、「国際都市おおた」の子どもを育てることを目的とし、「子どもたちのよさや可能性を引き出すとともに、国際都市おおた・糞谷で育ち、糞谷小学校で学んだことを生涯の誇りに思う子どもが育つ」学校づくりを行う。教育基本法の精神に則り、人間尊重の精神を基調とする。糞谷地域の一員としての自覚の基、ふるさと大田区に誇りもち、自らの力で人生を切り開き、「未来へ躍動する国際都市 おおた」で活躍する、心身共に健康で、豊かな人間性と未来を創る力のある人材を育てる。また、新学習指導要領の着実な実施をし、一人一人の個性や能力に合わせたカリキュラム・マネジメントを通して、地域社会に開かれた教育課程を実現する。

1 目指す学校像等を踏まえた中期目標・方策

「国際都市おおた・糞谷で育ち、糞谷小で学んだことを生涯の誇りに思う子どもが育つ」学校

本校は、今年度、開校70周年（創立146年）を迎える。「糞谷」という地名には、「穀物が育ち、人が集まる」という説がある。こうした歴史と伝統、実績に支えられ、人がにぎわう地域環境と活気のある校風で、「国際都市おおた・糞谷で育ち、糞谷小で学んだことを生涯の誇りに思う子どもを育てる」ため、多くの人の思いを折り重ねた本校のよさを生かしていきたいと思う。

- ・子どもを第一とする。
- ・生涯学習の視野に入れた、義務教育段階である。⇒ 中学校にリレーする。
- ・人格形成を図り、社会性を育成する。
- ・自信につながる教育活動を展開する。
- ・保護者、地域と連携・協力した教育活動を展開する。

(1) 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】

●困難に遭遇した際の問題解決に資する力育成するために

体験や問題解決学習を通して、自ら目標をもち、何をどう学ぶかという学び方を身に付けさせるようにする。学習の基盤となる能力（言語能力、情報活用能力、問題解決能力）を着実に育成するための教育活動を展開する。

(2) 学力の向上【知】

●子どもたちに確かな学力を着実に身に付けさせるために

よりよく人生を送るための基盤となる基礎学力の定着を図る。知識は思考の基盤である。授業においては生活指導との一体化を図り、児童理解に努め、基本はきちんと指導する。受容・許容・肯定。思いやり、学び合い、高め合い、親切、協力・助け合い、譲り合い、意欲、工夫、創造性、未来志向。自主性、自発性、主体性、達成感などが子どもに表れるようにする。

(3) 豊かな心の育成【徳】

●子どもたちが他者の立場に立って考えるとともに、他者と協調・協力するために

いじめを許さず、誰もが楽しく登校し、自己実現できるようにする。そのため、子どもの生命と人権を尊重について正しく認識し、誠実に実践し、全ての子どもがその子らしく人間として尊重されることを通して、自尊感情・自己肯定感情を醸成する教育の充実を図る。

(4) 体力の向上と健康の増進【体】

●健やかな体を育成し、安心・安全に生活することができる力を育てるために

活発な本校の児童のよさを生かし、日常的な外遊びの励行とともに、体育科や保健領域での指導を適切に行い、健全な生活を送るための知識・技能を定着させる。

(5) 魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】

●教職員が職責を自覚し、自らの力を向上させようとする学校

子どもたちの学びを確実にするために、教職員が協働し互いに高め合うよう熟慮する。他者の意見に学び合い、互いの専門性や持ち味を生かし合う学校にする。提案、交流、議論など、相互に開き、学び合うようにする。

(6) 学校・家庭・地域が一体となっても進める教育【学校・家庭・地域】

●保護者に信頼される学校

子どもたちの自立の基礎づくりのために保護者・地域と連携・協働する。学校公開、地域公開、学校ホームページ、学年・学級だより等により、学校のことを知ってもらう。互いの役割を果たし、ともに力を合わせ、開かれた学校づくりを進める。

●地域に愛される学校

地域に誇りをもつ心情を育てる。学校外協力者、体験活動の充実、地域の歴史学習、地域の人的・物的資源の活用を推進する。

2 目指す児童像〈糶谷小の教育目標〉

	教育目標	具体
	元気な子(体)	たくましく生きるための意欲と健康と体力をもつ子
◎	考える子(知)	知識を習得し、よく考え課題を解決する子
	思いやる子(徳)	差別をせず、偏見をもたず自他を大切にする子

知・徳・体をバランスよく育成し、大田区教育委員会教育目標の「意欲をもって自ら学び、考え、行動する人」、「思いやりと規範意識をもち、社会の一員としての役割を果たす人」、「自らの可能性を伸ばし、未来を拓き地域を支える人」の育成を目指す。

人育ては、子どもたちに期待をし、必ず育てたいという夢をもってこそ、成り立つのではないかと思う。

【自律】知らないこと知ろうとする、自分の与えられた課題に一生懸命取り組み、成し遂げようとする。誠実で、うそをつかず、人をだまさず、自己中心的でない、不平を言わない。

【共生】親切で、友好的で、相手の立場に立って考えることができ、優しく、思いやりがある。人のために尽くす心がある。

【創造】価値あるものを創りだす、振り返り、新たな考えを出す、創意工夫する、美しいものを美しいと思う、感動する心をもっている。

子どもたちの未来には、多くの夢や可能性が広がっている。子どもたちの幸せな人生を送るための選択の幅を広げる、未来決定の自由を保障した教育の実践に努めたい。

3 目指す教師像

(学 び)：授業を磨き、自分を変えていく教師（授業スキル）。服装、言葉遣いなど社会性のある教師

(支 え)：協同的な学びを共有できる教師

(つなぐ)：子ども成長を期待し、知的好奇心あふれ、授業を工夫する教師

子どもにとっていきたくなる学校とは、やはり授業の充実により成立する。分かる授業は、生活指導そのものであり、進路指導そのものである。それはまた、子ども一人一人の出番を保証することで成立するので、個に応じた教育の展開につながっていく。

II 今年度の取組目標と具体的方策

1 目標：「学力の向上【知】」に重点を置き、児童の学力と自尊感情・自己肯定感の醸成を向上させる。

2 方策

(1) 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】

ア 持続可能な社会をけん引する力の育成

学校レガシー2020教育、外国語活動・外国語科、特別活動（委員会活動や集団・宿泊的行事）に興味・関心をもたせ、国際理解教育を推進する。

イ 多様性の尊重「ともに」

男女の差別のない、人権差別のない共生社会の実現のための教育活動を展開する。特別支援教育と生活指導との連動を図り、教職員の研修、家庭・地域への啓発を図る。M I Mの活用を図る。

ウ ICT教育の充実

論理的、科学的思考を育むため、プログラミング教育の推進や理科支援員等を有効活用し、教科横断的に進める。

エ キャリア教育の充実

特別活動を核としてキャリアパス・パスポートを活用し、系統的・計画的なキャリア教育を推進する。（「学級活動（3）」）

(2) 学力の向上【知】

ア 教科書を適切に使用した指導の徹底

日常に関連のある指導内容を計画するなどして児童の学習に対する興味・関心を高め、指導方法を工夫し、主体的・対話的で深い学び（所謂「アクティブ・ラーニング」）の視点に立った授業改善を行う。児童自らの意見や考えをもって、論理的に表現したり、相手の立場を尊重して討論したりする思考力・判断力・表現力を育てる。

イ 確かな学力の育成（校内研究の活性）

- ・自ら学ぶ目標を定め、何をどう学ぶかという主体的・自律的な学び方を身に付けさせる。
- ・体験的、問題解決的な学習等を通じて、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学意欲を育てる。
- ・校内研究をはじめ、授業等において、ICT機器や一人1台端末を積極的に活用し、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する。個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。
- ・学習補助員を活用した補習を行い、個に応じた指導を図り、基礎学力の定着を図る。

(3) 豊かな心の育成【徳】

ア 道徳科を要とした道徳教育の充実

本校は、大田区教育委員会から人権教育研究協力校の指定を受けていることから、「自分の大

切さとともに他の人の大切さを認めることができる」、「自分のできることできないことなどすべての要素を包括した意味での『自分』を他者とのかわり合いを通してかけがえのない存在、価値ある存在として捉える気持ち」の自尊感情・自己肯定感の醸成を図る。校内研究と連動させる。

イ 子どもたちが他者の立場に立って考えるとともに、他者と協調・協力するために

心のサポート月間などの取組や、養護教諭、スクールカウンセラー、生活指導主幹教諭を中心とした教育相談体制の充実を図り、児童の悩みやいじめを早期に発見し適切に解決する。

(4) **体力の向上と健康の増進【体】**

ア 体力の育成

体育的活動を推進し、運動好きな児童の育成を図る。また、学校・学年・学級の取組、クラブ活動・休み時間等の遊びなどに積極的に取り組み、児童一人一人の体力を高めるとともに、生涯を通じてスポーツに親しむ習慣の基礎を築く。

イ 体育科保健の授業の着実な実施

体育科主任及び養護教諭と連携した着実な実践をする。セーフティ教室も連動させる。

(5) **魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】**

ア 子どもたちの学びを支える教師力の強化

- ・教職員が将来の社会を支える人材を育てるという職務の崇高な使命を自覚するとともに、児童一人一人に思いやりをもって豊かなコミュニケーションを図ることで、質の高い教育活動実践する。
- ・教職員が常に学ぶ姿勢をもち、校内研究、校内OJT、各種研修会で互いに学び合い、情報交換し合いながら、指導力を向上させる。
- ・児童の自己決定、自己存在感、共感的人間関係の構築を重視した生活指導の充実を図るとともに、いじめや不登校など諸課題に対し、担当委員会での組織的な対応を図り、児童への支援を視点とした早期解決を図る。特に、生活指導支援の活用を図る。
- ・管理職が教職員の悩みや苦勞を共有し、必要とされる適切な指導・支援を行うことで、安心して職務に専念できる学校風土を醸成する。特に、教育の質を向上させる働き方改革を行い、年間を通して在校時間平均月80時間を超える教職員をゼロにしていく。

イ 子どもの自立を促す教育の実践

- ・特別支援教室（サポートルーム）の充実を図り、特別支援教育を推進する。
- ・教育機会確保法の内容理解を進め、不登校児童の支援体制を構築する。

ウ 読書指導の推進

本に親しみ、語彙理解等言語能力の育成に資するよう、学校図書館の司書と連携し、調べ学習や読書活動の充実を図る。

エ 安全・安心の確保

日々の安全点検、安全指導を充実させ事故の予防を徹底させるとともに、万が一の事故・災害の発生時には、児童の身体・生命の安全を第一に、迅速かつ適切な対応に努める。

(6) **学校・家庭・地域が一体となつてともに進める教育【学校・家庭・地域】**

ア 基本的生活習慣の育成

年間を通して、元気な挨拶の励行、早寝・早起き・朝ごはんの啓発に取り組む。また、歯磨き指導の取組等を通して、健康教育を推進する。

イ 適切な情報発信

教育活動を広く公開するとともに、学校ホームページや各種たより等の充実を図り、情報発信

する。

ウ 保護者・地域の信頼の獲得

- ・保護者会やPTAの活動を活用し、保護者と地域、学校とが協働して児童を育てる体制を整える。
- ・地域教育連絡協議会における地域の意見を受け止めるとともに、地域の情報・協力を得て、地域と協働して教育活動を円滑に進める。
- ・学校支援地域本部「スクールサポートこうじや」の人材・機能を十分に活用し、これまで以上に地域の力を得ながら教育活動を充実させ、地域と共に歩む学校を目指す。
- ・学校の教育活動を積極的に発信するとともに、地域人材によるゲストティーチャーや地域施設、産業などの教育資源を活用した授業を展開する。

Ⅲ 重点目標と方策

☆令和4年度学校経営方針 「持続可能な学校づくり」

テーマ「『温故知新』で糀谷小ウェルビーイングの実現」

★令和4年度の重点

①70周年行事 ②授業改善 ③不登校児童の支援

1 目指す児童像<<糀谷小の教育目標>>

「温故知新」は、初代校長 宮田 高男先生の言葉である。前に学んだことや昔のことを調べ考え、新たな知見を見だし、自分のものとすることである。これは、まさに学校教育の学びそのものである。教科書を使って、自ら新しいことを学び考え行動し、創造力や個性を伸ばし、人間性を豊かにしていくことと同意であると考ええる。

また、糀谷小学校の教育は、教育基本法に則り、人間尊重の精神を基調とする。糀谷地域の一員としての自覚の基、ふるさと大田区に誇りもち、自らの力で人生を切り開き、「未来へ躍動する国際都市おおた」で活躍する、心身共に健康で、豊かな人間性と未来を創る力のある、ウェルビーイング（幸福）な人生を送ることのできる人材を育てる。また、一人一人の個性や能力に合わせたカリキュラム・マネジメントを通して、地域社会に開かれた教育課程を実現する。

これらのことから、本校は、以下の児童像を掲げ、**児童のウェルビーイングの実現**を目指し、至誠通天の思いで、自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を育成する教育活動を推進する。

	教育目標	具体
	元気な子（体）	たくましく生きるための意欲と健康と体力をもつ子
◎	考える子（知）	知識を習得し、よく考え課題を解決する子
	思いやる子（徳）	差別をせず、偏見をもたず自他を大切にする子

2 上の1で掲げる知・徳・体をバランスよく育成するために、次の6つ力の基礎づくりに取り組む。

6つの力		具体的な姿
1	【正しく適切な知識・技能の活用力】 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力	一人1台端末を効果的・倫理的に活用する。
2	【協働性】多様な社会グループにおける人間関係形成力	他者と協力して課題に取り組む。
3	【自律性】自律的に行動する力	人に迷惑をかけず、自分で決め、人のせいにならない。
4	【創造性】新たな価値を創造する力	自分で考え、挑戦（チャレンジ）する。
5	【合意形成】対立やジレンマを克服する力	意見の相違を解決する。
6	【責任感】責任ある行動をとる力	最後まで粘り強く取り組む。

3 重点事項

(1) 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】

①創立146年、開校70周年行事「糎谷小 ウェルビーイングの実現」

②人権教育研究協力校としての人権教育の推進（児童の主体的な活動の推進）人権課題「子供」、「同和問題」、「障害者」、「高齢者」、「北朝鮮当局による拉致」、「ハンセン病」、「性同一性障害」等

③理科教育の基盤整備と質の向上；理科室整備と活用、理科教育専門員の指導・助言による授業改善

④更なる一人1台端末等ICTの活用により、一人一人の力を最大限に伸ばす教育活動の実施

⑤体験活動の充実；ものづくり、自然体験等、総合的な学習の時間等を活用した、学び意欲を育てる体験活動の充実、行事「音楽会」の計画的実施

⑥キャリア教育；明星大学教授による6年生への特別授業、東京航空局の出張授業

(2) 学力の向上【知】

①校内研究の推進（先行学習・全員「もっとわかる」保持と理解、全員研究授業（観察授業で）、自分で指導案を作成、予習・復習、全文視写と共書き、タブレットの質的活用、語彙力強化の辞書活用、効果測定の平均正答率のアップを目指す）

②観察授業の視点（1学期「授業改善推進プラン」2学期「児童理解（QU等の活用）」3学期「校内研究」）

②授業改善推進プランの絶対的取組。

③赤本をもって授業しない。教材研究し、自分のノートで勝負する。

④読書活動の充実（読書活動計画を踏まえ、家読3回・読書学習司書の活用）と朝学習の効果的活用（読書以外に授業で活用する。）

⑤補習の充実（学習カルテの活用）

⑥漢字検定の令和3年度よりも充実！学級ごとに希望級の合格率の設定（自己申告時）

(3) 豊かな心の育成【徳】

①道徳授業地区公開講座の実施（都指導資料の活用）

②ウェルビーイングの実現につなげるゲストティーチャーによる授業

③Q-Uの効果的活用（いじめアンケート、学級経営）

④中休み、昼休みの外遊びの励行：教員も遊ぶ

⑤自己肯定感や自尊感情の醸成につながる授業等での価値付け

(4) 体力の向上と健康の増進【体】

①第6学年におけるがん教育の実施

②「早寝・早起き・朝ごはん」の結果分析の活用と啓発

③一校一取組、一学級一実践の実施；年度始めに決め、4月から実施

④体力テストの効果的実施と活用

⑤体育・健康教育授業地区公開講座の健康教育実施（授業は食育、講演は「インターネット依存的傾向」）

⑥学校2020レガシーとしてポッチャ等の実施と講演授業「デフリンピックの選手等の招聘」

(5) 魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】

①学級や教科経営力（経営案の策定）の向上と研修会の充実 ※特に若手10年未満の教員の定期研修実施

②働き方改革（年休取得15日以上、個人平日記念日、19時退勤の実施、年間平均長時間勤務45時間未満）

③いじめ対策委員会によるいじめ対応（「SOSの出し方に関する指導資料」の活用）

④不登校児童の支援（全員校長面接（3・6・8・11・1）・不登校児童支援委員会の定期開催（5・7・9・

11・1・3）、居場所作り、担任による定期家庭訪問、登校支援アドバイザーと子供と家庭の支援員等

の活用）

⑤スクールカウンセラーと養護教諭、管理職との連携強化（定期連絡会の開催と児童面談（6）の計画的実施、いじめ、問題行動等）

⑥安全指導日の全員実施

⑦研修の充実（特に人権、OJT校内勉強会）

⑧校務分掌改革（チームとしての改革、複数体制）

⑨学校菜園（東糎谷防災公園含む）の教職員による活用・管理の徹底

⑩教材の整備（理科室整備と理科教材の整備、各教科等の教材整備（なるべく私費購入しない）、指導書の購入）

(6) 学校・家庭・地域が一体となっても進める教育【学校・家庭・地域】

- ① わくわくスクール全員（教職員）1教室以上開催（45分間～60分間）※夏季休業日を中心もちろん冬季休業日でも可
 ※学力向上に関する教室の実施（校長：例）漢字検定、理科実験等
 ※保護者が運営する教室の推奨
- ② SNSルールの改定（PTAと共に）※特活部で児童会活動を動かす。
- ③ 家庭学習の充実；一人1台端末の活用、研究推進による予習の実施

5 服務等

(1) 服務の厳正

- ・名札・笛の着用 ・電話対応2コール以内
- ・全員、週案作成・提出（毎金曜日） ・3S（整理・整頓・清掃）
- ・机上整理
- ・提出期限厳守

- ・19時までの退勤（週2回の定時退勤）の励行
- ・教職員で決めたことの絶対実施（共通指導、期限厳守）

(2) 教師の当たり前の実施

- ・教職員の出退勤時の挨拶と校内で出会う外部の人への挨拶実施（子どもの手本）
- ・会議の時に、違うことをしない。会議を精選しましたので。
- ・夕会等では1分以内で発言
- ・朝の児童存在確認8：45※呼名の実施
- ・朝学習の確実実施（他のことや何もしないのはなし）
- ・出席簿の携行
- ・教室移動の際の防災頭巾の携行指導
- ・人権遵守（誤字のない掲示、コメント入り掲示、忘れ物チェックやテストが子どもの見える場所に置き去りにしていない）
- ・個人情報 の 適切管理（個人票の白紙がないように。地図や、学級名や出席番号の記載）

(3) 教室環境整備

- ・児童下校後、教室内と廊下の窓締め、ゴミ拾い、トイレのチェックと黒板クリーナーチェック
- ・退勤前に教室の机の整頓、清掃、黒板掃除

(4) オンラインによる学校評価等実施

6 評価 ※下線朱書箇所は、新規にアンケートを作成要。太字は自己評価に掲載。

(1) 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】

【関係者評価】保護者アンケート「授業を通して、児童同士の交流が行われている。」

A90 B85 C80 D80未満

①開校70周年（創立146年）行事「糶谷小 ウェルビーイングの実現」	<p><u>全ての児童が、児童アンケート「開校70周年（創立146年）行事『糶谷小 ウェルビーイングの実現』が達成できたと思う。」において、肯定的に回答している。</u></p> <p>・<u>数値目標 90%</u></p>
②人権教育研究協力校としての人権教育の推進（児童の主体的な活動の推進）	<p>全ての教員が、教員アンケート「道徳科等において、他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。」において、肯定的に回答している。</p> <p>・数値目標 90%</p>
③理科教育の基盤整備と質の向上	<p>全ての教員が、教員アンケート「論理的、科学的な思考力の育成を目指し、『おたのものづくり』を生かした体験活動や理数授業等を実施する。」において、肯定的に回答している。</p> <p>・数値目標 90%</p>

④更なる一人1台端末等ICTの活用により、一人一人の力を最大限に伸ばす教育活動の実施	<p><u>全ての教員が、教員アンケート「日常的（週3回以上）に、一人1台端末を活用した授業の充実を通して児童の情報活用能力（情報モラル含む）の育成を図る。」において、肯定的に回答している。</u></p> <p><u>数値目標 90%</u></p>
⑤体験活動の充実	<p>【再掲】全ての教員が、教員アンケート「論理的、科学的な思考力の育成を目指し、『おおたのものづくり』を生かした体験活動や理数授業等を実施する。」において、肯定的に回答している。</p> <p>・数値目標 90%</p>
⑥キャリア教育	<p><u>全ての教員が、教員アンケート「キャリア教育の視点を踏まえ、児童の知識・技能、人権感覚や道徳性を養う力のあるゲストティーチャーを活用した授業を行う。」において、肯定的に回答している。</u></p> <p><u>・数値目標 90%</u></p>

（2）学力の向上【知】

【関係者評価】保護者アンケート「教師は、タブレットや電子黒板等のICTを活用するなど、児童が分かりやすい授業を行っている。」 A95 B90 C80 D80未満

①校内研究の推進	<p>全ての教員が、教員アンケート「学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。」において、肯定的に回答している。</p> <p>・数値目標 90%</p>
②授業改善推進プランの絶対的取組	<p>全ての教員が、教員アンケート「授業改善推進プランを、授業に生かす。」において、肯定的に回答している。</p> <p>・数値目標 90%</p>
③赤本をもって授業しない。	<p>【再掲】全ての教員が、教員アンケート「授業改善推進プランを、授業に生かす。」において、肯定的に回答している。</p> <p>・数値目標 90%</p>
④読書活動の充実	<p><u>全ての教員が、教員アンケート「読書全体計画に基づき、学校図書館等の図書資料を活用する授業を行う。」において、肯定的に回答している。</u></p> <p><u>・数値目標 90%</u></p>
⑤補習の充実	<p>全ての教員が、教員アンケート「学習補助員等による算数の補習を実施する。」において、肯定的に回答している。</p> <p>・数値目標 90%</p>
⑥漢字検定	<p>学級ごとに希望級の合格率の設定し、児童に取り組みせる。</p> <p>・数値目標 8割の児童が希望級を達成できることを70%の学級で実現する。</p>

（3）豊かな心の育成【徳】

【関係者評価】児童アンケート「自分にはよいところがあると思う。」 A90 B85 C80 D80未満

①道徳授業地区公開講座の実施	全ての教員が、教員アンケート「道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。」において、肯定的に回答している。 ・数値目標 90%
②ウェルビーイングの実現につながるゲストティーチャーによる授業	<u>【再掲】全ての教員が、教員アンケート「キャリア教育の視点を踏まえ、児童の知識・技能、人権感覚や道徳性を養う力のあるゲストティーチャーを活用した授業を行う。」において、肯定的に回答している。</u> ・数値目標 90%
③Q-Uの効果的活用（いじめアンケート、学級経営）	全ての教員が、観察授業において、Q-Uやいじめアンケートを活用した授業を行う。 ・数値目標 100%
④中休み、昼休みの外遊びの励行：教員も遊ぶ	全ての教員が、教員アンケート「体育的行事、休み時間など様々な機会を通じて運動習慣の確立を推進する。」において、肯定的に回答している。 ・数値目標 90%
⑤自己肯定感や自尊感情の醸成につながる授業等での価値付け	<u>全ての児童が、児童アンケート「自分にはよいところがある。」と肯定的に回答している。</u> ・数値目標 90%

(4) 体力の向上と健康の増進【体】

【関係者評価】保護者アンケート「学校は、コロナ対策をしながら、心身の健やかな成長のために体を使った体育健康教育を行っている。」 A90 B85 C80 D80未満

①第6学年におけるがん教育の実施	全ての教員が、教員アンケート「ゲストティーチャーの活用をはじめ、がん教育や性教育、食育等につながる健康教育の授業を実践する。」において、肯定的に回答している。 ・数値目標 90%
②「早寝・早起き・朝ごはん」の結果分析の活用と啓発	全ての教員が、教員アンケート『早寝・早起き・朝ごはん』月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。」において、肯定的に回答している。 ・数値目標 90%
③一校一取組、一学級一実践の実施	全ての教員が、教員アンケート「体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や『一校一取組』運動や『一学級一実践』運動を実践する。」において、肯定的に回答している。 ・数値目標 90%
④体力テストの効果的実施と活用	<u>【再掲】全ての教員が、教員アンケート「体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や『一校一取組』運動や『一学級一実践』運動を実践する。」において、肯定的に回答している。</u>

	・数値目標 90%
⑤体育・健康教育授業地区公開講座の健康教育実施	<u>全ての教員が、給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」の授業を行う。</u>
⑥学校2020レガシーとしてポッチャ等の実施と講演授業	<u>「デフリンピックの選手等の招聘」した公開講座(授業)を実施する。</u>

(5) 魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】

【関係者評価】児童アンケート「学校はとても楽しいと思う。」 A90 B85 C80 D80未満

①学級や教科経営力(経営案の策定)の向上と研修会の充実	教員全員が、学級・教科経営案を策定する。 ・数値目標 100%
②働き方改革	<u>全教員が、年休取得15日以上、19時退勤を実施し、年間平均長時間勤務45時間未満とする。</u> ・数値目標 90%
③いじめ対策委員会によるいじめ対応	全ての教員が、教員アンケート「学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。」で肯定的に回答している。 ・数値目標 90%
④不登校児童の支援	全員校長面接(3・6・8・11・1)・不登校児童支援委員会の定期開催(5・7・9・11・1・3)、居場所作り、担任による定期家庭訪問、登校支援アドバイザーと子供と家庭の支援員等の活用を図る。
⑤スクールカウンセラーと養護教諭、管理職との連携強化	毎月1回以上、定期的に打ち合わせを行う。
⑥安全指導日の全員実施	全ての教員が、安全指導目標を確認し、各学級で実施する。教員アンケート「安全」において肯定的に回答している。 ・数値目標 100%
⑦研修の充実	<u>全ての教員が「本校は研修が計画的に実施されていると思う。」</u> ・数値目標 90%
⑧校務分掌改革	全ての教員が、教員アンケート「校務分掌」において肯定的に回答している。 ・数値目標 80%
⑨学校菜園(東糀谷防災公園含む)の教職員による活用・管理の徹底	・全ての教員が、指導計画に沿い、活用・管理をする。
⑩教材の整備	全ての教員が、教員アンケート「児童の実態教材」において肯定的に回答している。 ・数値目標 90%

(6) 学校・家庭・地域が一体となっても進める教育【学校・家庭・地域】

【関係者評価】保護者アンケート「学校は、学校だよりや学校ホームページなどの情報で、学校の様子が分かるようにしている。」 A90 B85 C80 D80未満

①わくわくスクール全員(教職員)1教室以上開催	全ての教員が、1教室以上実施する。 ・数値目標 100%
-------------------------	---------------------------------

<u>②SNSルールの改定</u>	<u>学校とPTAとで連携し、年度内に策定する。</u>
③家庭学習の充実	全ての教員が、教員のアンケート「オンラインを活用した家庭学習の課題を課している。」において肯定的に回答している。 ・数値目標 90%

(7) その他

①教室環境整備	全教員が、教員アンケート「教室環境整備」において、肯定的に回答している。 ・数値目標 90%
②オンラインによる学校評価等実施	学校評価等において、全保護者の9割以上がオンラインで回答する。

7 ウェルビーイングの実現につなげる教員研修及びゲストティーチャー(案)

(1) 教員研修

- 「いじめ関係（方針等含む）」校長
- 「不登校関係」校長
- 「Q-Uの基本」大学教授招聘 提案授業；校長
- 「フィールドワーク」校長（ハンセン病資料館、武州鼻緒騒動現地）
- 「先行学習」授業高度化支援センター長 鏑木 良夫 先生
- ◎特別支援教育関係
 - 「サポートルームについて」SR教員
 - 「特別支援教育について」東京学芸大学准教授 増田 謙太郎 先生

(2) 人権教育関係

- 「同和問題『食肉市場』」部落解放同盟品川支部長 高城 順 様（6年生対象）
- 「LGBT」専門家（5・6年生対象・保護者対象）

(3) 道徳教育関係

- 「道徳教育について（都指導資料の活用）」指導主事（保護者対象）

(4) 体育・健康教育関係

- 体育・健康教育授業地区公開講座「インターネット依存的傾向」久里浜医療センター医師（保護者対象）
- 「SNSとインターネットの使い方」校長（5・6年生対象）
- 「がん教育」保健師（6年生）

(5) 学校2020レガシー

- 「ボッチャの実施」
- 「デフリンピックについて」デフリンピック選手（児童・保護者対象）

(6) キャリア教育

- 「中学校に向けて」明星大学教授 樋口 豊隆 先生（6年生対象・6年保護者対象）
- 「空港教室」航空局 能登 氏（6年生対象・6年保護者対象）

(7) 研究関係

- 授業高度化支援センター長 鏑木 良夫 先生

(8) 服務研修（4・7・12）管理職

